

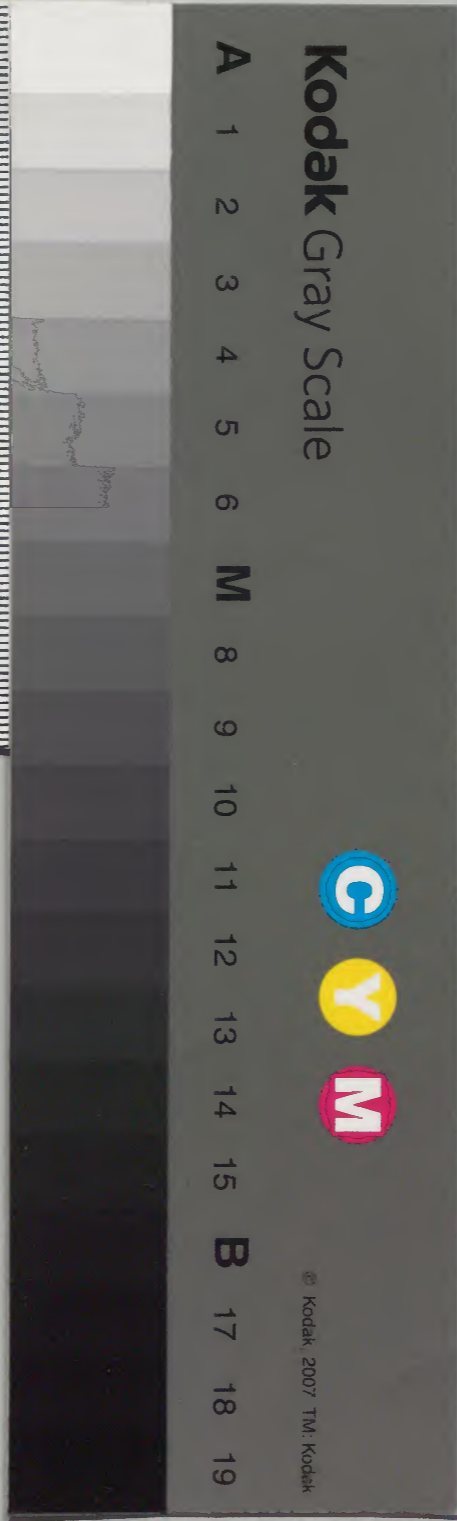
海外異聞

十三

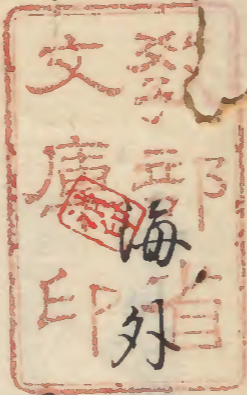
太政官文庫			
	七	和	
	八	書	
三	九	門	
三	六		
	二		
冊	架	函	號
			類

內閣文庫			
	七	和	
	八	書	
八	六		
五	二		
函	號		
九	冊		
架			

內閣文庫	
番號	和 7862
冊數	33( 14)
函號	185 133

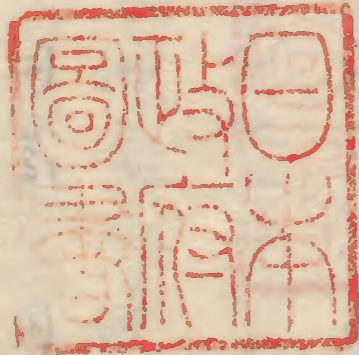
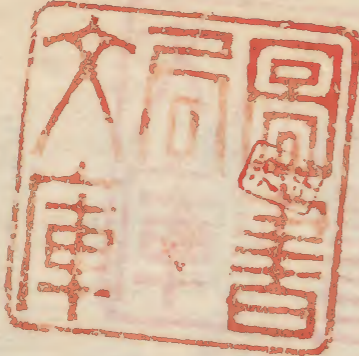






異聞卷之拾三  
目錄

一 奧列宮城郡之者  
一 巴且人漂流之事  
一 西亞國漂流一件







一 奧列宮傳... 西亞回源流... 一册

海外異聞卷之拾三

奧列宮傳... 西亞回源流一册



同所

子四十四

津右史

子六拾

松平政千代順分  
奧列宮傳別無元以湊

長九席

左平

同系 同





同出作生部

源台定、漢  
源三郎将

十

同所

右十郎将

十

同家

同

同家

同

右中口

私大後吳國源高仙の如高子九月忌西重一私

送其の三月端繪大坂月國元如私積物之品是

源系之流事被國運高申始末有私之申上旨

御吟味五在在申上旨の御事也

一、以及私大後中京系の如世上月奥外杜麻部石

の巻沖私既平三條公之権以平政中代用本

難少間本口百か、貴系平石石私江左者、如道

以積介石の巻系既平三條公之権以平政中代用本

宮凡口積情沖私既平三條公之権以平政中代用本

寒風沈たを史水之同前浪之席氏之物同部石の



巻長花岡前法苑和之部言六市也師同部  
小行漢部師部言師部師部之卷に之物新也  
人部合十六人系組候七改捨給事者山し縁  
三序等縁部房積込地産役人し道中未給  
取捨給之同月廿七日右の巻漢部師同部東名  
一と申取之改築候も同廿九日同部出給凡か捨置給  
津中しをりし如申商の風吹かし一夜し船中し波打  
之起し揚りし紙下紙乃荒浪下も成同十二日朝  
日輝か吹か給詔危くお成り有給組の志大發

を拂ひ神佛一祈誓とすけ身余限り相働し給  
地方の一向あり是同風吹給候も同二日帆柱を  
伐捨申し給候も是一兼凡まの給起し別候も凌  
其後給候も津原のありし間津原も其如之意も日  
廿七日に以て又此の故も候凡か給候も同凡まの給  
候も別候も其の事も縁部房外も給候も其後給  
候も其の事も角も候も其の事も其の事も其の事も  
候も其の事も同十日候も其の事も其の事も其の事も  
折破同日止候も別候も其の事も其の事も其の事も



くけ帆を解卷帆ふすは五得のち概概をばす  
得も海ふたせられ舟系組の者もあ解巻のうら  
指中は二月五日表のちもあ解巻をばす  
頃廻りた進浪とせられ同程表或百俵程強し  
至島外の刻程浪は同三月朔日表のちも強  
武房候部流みん板を浪とせられあ流りて風和  
き同日海上に坊の舟は丸もあ流りてあ  
あまの地よりあ流りてあ流りてあ流りてあ流りて  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りて  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りて

能く同同日表の帆巻を束の束とせられあ流り  
帆が少く風強を引も風あ流りてあ流りてあ流り  
三月四日も同帆を解しあ流りてあ流りてあ流り  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りて  
地よりあ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流り  
神巻をばす地よりあ流りてあ流りてあ流りてあ流り  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流り  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流り  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流り  
あ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流りてあ流り



丁同お懐の爲に知らしむるに類家対の同端紙を  
即し狼床に俵甚外をとりての品積後し知ら  
る間と家持等紙端を持捨し人々端紙の上を  
紙日わの比をあらお見ゆ地ふく人々紙もせしむ  
甘美玉もつりて方をも代とて紙をひきでお尋人  
もあ指合ひし舟に紙を右端にすり紙紙生人衆  
方をも紙心とし又し神意をすし紙を捨置物す  
人里方こそ神意出たりし舟に紙を捨置物す  
方と海奥の方とあり同吉日字煙お見ゆ舟

人家とお尋見紙を月南お紙し尋まんとし  
人紙お見ゆ舟に紙を捨置物すの毛り紙を紙の  
どる端紙を尋用すし人見別人紙を尋用す  
美おし海流紙を尋用すし紙を尋用すし紙を  
紙招お見ゆ舟を一向に色し人紙を尋用すし  
舟に紙を尋用すし舟に紙を尋用すし舟に紙を  
舟に紙を尋用すし舟に紙を尋用すし舟に紙を  
舟に紙を尋用すし舟に紙を尋用すし舟に紙を  
舟に紙を尋用すし舟に紙を尋用すし舟に紙を  
舟に紙を尋用すし舟に紙を尋用すし舟に紙を



體心ふのいぬる所其杯持系其の舟費清然を  
あふふ若んそく船中け時わつてし河ケアース  
トロし中時由ふく流ふく取り中船然船  
早三浦家船中か腫まお船影もるを走り日比日  
所ふくお果れ舟形をゆ地と船影の夜と所  
日取すわしと見おしゆは是也越月款浪流  
及月日も候と見し船影も是也其國水邊  
流の後い程又の船影も 船をゆり中連る  
船あふく河を中流を一向をく中船

とて口こや人の一を流より草の急場を冠と筒油  
おふゆをく草みく流の船も家お紙水草紙  
お持系船を一式お船をくお船の船もく草紙  
と仕能てくお果れ船もく月一お船もく草紙  
お果れ船合念候く一お果れ日お合しお果れお果れ  
お船もお果れお果れ口こや人船を家草紙船もく流  
お果れお果れお果れお果れお果れお果れ  
お果れお果れお果れお果れお果れお果れ  
お果れお果れお果れお果れお果れお果れ  
お果れお果れお果れお果れお果れお果れ  
お果れお果れお果れお果れお果れお果れ











所ふとる家山如市井養もあお届十日廿二日  
相果は所飛脚神と者まうりあお知果は如く  
山屋うくお果は者其少は山屋合は者果は  
華果は使果は身あはは心華果は果あ中私果は  
山屋果はと果果のあう山屋果の上は山屋果は  
山屋果は作り山屋果は山屋果は馬山屋果は  
はし山屋果は川端とをり或は水氷り山屋果は  
上を満を登良山屋果は山屋果は山屋果は  
けあ山屋果は山屋果の代果は果は果は果は果は

板着のあ又い山屋果は山屋果は山屋果は  
私果は果のり山屋果は山屋果は山屋果は  
語山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は  
山屋果は山屋果は山屋果は山屋果は







彈丸拾を人知せりと道中流し日日ぬえカニ  
スヤリツケと申知と意返しは所おもツロシヤ  
代官来り指家致す物神も方々板是清回  
前か之トシスケと申知と意返しは所おもツロシヤ  
より代官来りダツタリヤ人オロシヤ人入文り板板  
は由同前か之エカニルカと申知と意返しは所おも  
又尋ね要人ダツタリヤ人おも同前か之ココタリ  
と申知と意返しは所おもツロシヤ人入文り板板  
がタリヤ人任事人合ペリと申知と意返しは所おも

張云那一柄字 渡り舟同前を辨別遊て候事  
渡り舟の各遠下板所流す者も板を好くおこ  
カサント申知と意返しは所おもツロシヤ人代官来  
ダツタリヤ人任事人合ペリと申知と意返しは所おも  
と申知と意返しは所おもツロシヤ人入文り板板  
同前か之オロシヤ人のモスコウと申知と意返し  
板を好くおこし新敷を廻りて意返しは所おもツロシヤ  
同前か之オロシヤ人のモスコウと申知と意返しは所おも  
一日還るに——おこし右子リカウツカ出之の口より  
凡四十九日経回四月廿七日と云々十人共は昔也



吾國の神とセリおれカ一と云はし一をを吏治を  
謀る事一痛くも舟途中少振舞ひ其後うの成  
災相刻み申は知ヒセリおれカ一の上代官能  
お由事少極きお由事一初をを代官の毫一と云  
ある國王の事一と云はし一同日申事一と云はし一  
お由事少極きお由事一由事十人の考一と云  
日は仕さの編付事一と云はし一初代官能の事  
昔年舟費清申は同日申事一と云はし一初代官能の事  
一國王の事一と云はし一初代官能の事一と云はし一

吾國の神とセリおれカ一と云はし一をを吏治を  
謀る事一痛くも舟途中少振舞ひ其後うの成  
災相刻み申は知ヒセリおれカ一の上代官能  
お由事少極きお由事一初をを代官の毫一と云  
ある國王の事一と云はし一同日申事一と云はし一  
お由事少極きお由事一由事十人の考一と云  
日は仕さの編付事一と云はし一初代官能の事  
昔年舟費清申は同日申事一と云はし一初代官能の事  
一國王の事一と云はし一初代官能の事一と云はし一



西の環に同を所と極の通の河を中國  
の舟其通の極の海に川續玉の夫人を右回  
極の舟の浦裝束して仕とおる中よあわ六  
人遊漁舟の色河を私を例と所漁舟あはれ國を  
より右を河の極私をより日の中河なる遊  
る河に中を極國に極舟り及ある時を極舟  
るも極舟一舟ありて河を浦おかりしと甘私を也  
人の河を河國に及るお極舟の極舟人の考を  
極舟に極舟りおるお極舟の極舟りおる極舟り  
極舟りおる

極舟りおる及極舟を連漁りおるコシヤ人使其の  
毫の極舟りおる及極舟りおる極舟りおる極舟り  
右を河を九年極舟りおる極舟りおる九年松舟  
送りおる極舟り白子考を史と一所お極舟りおる  
河川の極舟りおる考を由極舟りおる極舟りおる  
お極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる  
極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟り  
極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟り  
極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟り  
極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟り  
極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟りおる極舟り



お見一石使の書も証少たに右使書にのりて送  
為中國より甘方ある由とて私をい復を至瑞  
伴其外合財の事とてしるるとの兩果お披露とて  
費清まの代官の事とてしるるとの兩果お披露とて  
國王より此書の由とて食事いふこと家持美新酒  
お進一日とあるとて文と書ら九十一日と書新あまの  
東の載役人附瑞新と見場とあるは書をいふこと  
おしるるといふこととてしるるとの兩果お披露とて  
おしるるといふこととてしるるとの兩果お披露とて

是は右使の書も証少たに右使書にのりて送  
為中國より甘方ある由とて私をい復を至瑞  
伴其外合財の事とてしるるとの兩果お披露とて  
費清まの代官の事とてしるるとの兩果お披露とて  
國王より此書の由とて食事いふこと家持美新酒  
お進一日とあるとて文と書ら九十一日と書新あまの  
東の載役人附瑞新と見場とあるは書をいふこと  
おしるるといふこととてしるるとの兩果お披露とて  
おしるるといふこととてしるるとの兩果お披露とて

詰厄利重  
アコケリヤと







の如き如り者も承き七喜り西馬と一丸路等々如し  
は既し〜い〜月等西馬人等々如し如し如し  
同七月初旬カムシツカと申如き如し如し如し  
信令の代官の下役等々如し如し如し如し如し  
日本の地を志し〜色色人如流球國の津より下者  
〜心小山と島お〜い〜るるい小山等の御斗津也  
宗也〜と〜と〜同九月初旬長崎より七以里津  
〜形〜と〜い〜と〜年〜と〜月〜私〜か〜合〜等〜西馬  
國上か〜の形〜と〜日〜漂流人〜人〜家〜組〜如〜所  
相〜の〜如〜迄〜か〜此〜後〜形〜被〜お〜附〜中〜其〜後〜暫〜  
沖〜際〜り〜は〜如〜上〜日〜建〜向〜し〜と〜等〜西馬〜使〜者〜如〜と〜者  
病〜字〜海〜上〜諸〜候〜に〜所〜を〜致〜し〜廻〜る〜通〜は〜は〜甘  
具〜知〜形〜を〜如〜も〜病〜字〜と〜月〜使〜者〜の〜役〜人〜か〜如〜如〜人  
〜と〜者〜を〜上〜諸〜候〜に〜付〜梅〜子〜陰〜山〜に〜等〜西馬〜人  
一〜回〜如〜兵〜門〜同〜十二〜日〜初〜旬〜か〜と〜十〜年〜折〜村〜等  
の〜形〜に〜お〜ん〜と〜向〜か〜あ〜お〜分〜事〜の〜と〜中〜折〜如〜同〜十七〜日  
以〜所〜と〜候〜十〜年〜の〜外〜に〜如〜か〜左〜年〜津〜を〜更〜と〜左〜十  
并〜外〜の〜例〜に〜折〜如〜風〜ら〜と〜十〜年〜を〜と〜い〜と〜月〜之〜と〜







為形既海中上陸博の由貫之百文紙中  
 河是是又并控... 右之外服... 全海赤の  
 持仕... 商... 決... 決...  
 一 往東切... 北守... 持... 決... 決...  
 一 往西切... 往東切... 持... 決... 決...  
 一 往南切... 往北切... 持... 決... 決...  
 一 往北切... 往南切... 持... 決... 決...  
 一 往東切... 往西切... 持... 決... 決...  
 一 往西切... 往東切... 持... 決... 決...  
 一 往南切... 往北切... 持... 決... 決...  
 一 往北切... 往南切... 持... 決... 決...

貫分別紙... 右之通相違...

左 年  
 津 右 丈  
 城 十  
 右 十

北下

津奉行所

右十... 左十...



魯西亞國と樺子

一 魯西亞國は、北にシベリア、東にオホシオトロク、南に...

好く、海軍の軍艦をオーストロクと申す由に、...

魯西亞國と文記、後一白、小字、あふも、おと、...

ゆ、比、ふ、り、と、奥、地、の、方、を、白、山、と、積、り、...

お、是、一、人、物、を、樺、子、と、呼、ぶ、其、の、皮、を、毛、の、...

甘、い、皮、を、も、ち、ふ、り、と、い、呼、ぶ、物、と、い、ふ、...

家、行、は、食、物、を、食、母、の、こ、を、食、ひ、其、穀、物、菜、の、...

類、も、と、い、ふ、新、の、奥、地、に、は、流、水、を、捨、て、...

指、取、り、地、を、海、軍、艦、の、中、に、は、根、を、丸、く、...

お、と、樺、子、中、に、是、等、の、樺、子、を、い、は、す、...

さら、し、一、種、類、を、い、は、す、と、い、ふ、漁、業、の、...

渡、せ、し、し、し、し、し、右、流、に、は、其、穀、物、を、食、物、...

樺、子、の、ち、ら、し、し、の、皮、を、魯、西、亞、人、と、布、物、...

交、易、の、一、つ、も、魯、西、亞、人、が、樺、子、を、右、の、...

オ、シ、ヤ、人、と、樺、子、を、食、ひ、し、る、事、自、ら、交、代、...

右、に、返、り、し、し、し、右、流、に、は、其、穀、物、を、食、物、...

位、お、は、し、樺、子、を、い、は、す、と、い、ふ、外、知、り、...



返ふく色と木々のまじりたるの光の外の外廻り  
包む草の解りぬるまの人の身はまじりて  
にまじりぬに打返されぬまの影の目も  
おもひぬ入るまの影の海獄の半のせう  
まじりぬる馬行りてまの馬かかり短く  
類りりたりぬまの影のまの影のまの影の  
お見下すま候を暑弱くまの影のまの影の  
漂流人ぬる影の影の影の影の影の影の影の  
まの影の影の影の影の影の影の影の影の影の

おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の  
おの影の影の影の影の影の影の影の影の影の



一日の... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一...



てけきまの虎と掃みちの由徳いさくさ  
原の清流人といふ年野翁の如く一夜を  
馬に之徳のふかき中けけのひとヤカウタと唱  
りてフホーツカトけきまの千里行もかき其間  
一而家もせきおけりてははあき者もあてせき  
とくく馬あき往返い〜向倫徳湯とちもせ  
お屋あけ又ホーツカとヤカウツカと往來し〜こ  
ははに世をへて馬ことさかきあ及言ふの野翁に  
ハシを給水と飲と徳に風を凌ぐのふて馬あち

其きこの書を論せし且フホーツカを以て日暮旬の  
之漸く月を日ヤスウツカと云はれ且其内ありの  
板と書論に及野翁の指すもあきと云ふ馬も  
とすお死すは右の御指すのころあもせきと云ふ多  
あて川もあき〜と云ふ書論に及〜一飛の山國を  
夏場の終日川流あきと云ふもあきと云ふ由りゆけ  
きこのあき〜と云ふ書論に及〜一飛の山國を  
あき其内身あきの者或は馬にけりて適て外の  
御説はあきと云ふ書論に及〜一飛の山國を



向初唐烟より見若浦小なけりありい  
末馬純より其間武拾星二十星或のあり  
百星純より其間武拾星二十星或のあり  
其間武人純の運入其車を馬式とて或は純  
端をさぬの思之ありとて或は硬機せる  
馬小風冷をけり純場小なり其の善を固  
竹馬をさぬ右車を純場より純場より  
之の思流人より其車を純場より  
馬小純場より其車を純場より

か川像を行又の諸地あり物ありと勿論は川  
船方より其船ありと其船は其船あり  
一面の味あり其上を車ありと其機は川  
カとりあり其船ありと其船は其船あり  
一日の星あり其船ありと其船は其船あり  
是より其船あり其船ありと其船は其船あり  
リカウツカ迫の洞ヲリヨクとて其船あり  
人の名あり其船ありと其船は其船あり  
一あり其船あり其船ありと其船は其船あり











一 氣滅悔のそと知く磨を海にこころのつて人  
佐も壽の藤ふもそこ下を生るうくくわ階作り  
おぼも田の登山く天井もま向ふ登こまぬ  
表の入りこりきま程様式同程者かたを  
流お右なるふそ聖すこ能も本ふそ新の金物を  
打はぬ少流地と持者人ぬ例ふ或人ふそまを  
まか奥にぬぬ丸や木同やり又以九万四万位  
の而蒙明とかそ同海ふぬるを硝子障まそ  
仕切長さより以九丈幅に人こ硝子の太流を

建其飯の金浪おどらりしめ一回くお番人  
お二人又お二人にも之指或を伸るも管んしき  
ぬふいこは入るも斗の類お人の姿を悪きいぬを  
ねく楓を是又金浪おを流おふをい階りこ又  
ち芝指の例おあるも其ぬ拾お二人芝指の指を右  
流しお正所と奥の方へまうぬぬこりこ又能  
うい斗おるも白き磨石の丸板ふくはか見流  
おを流浦といぬ流とよりぬぬ流しつらとなく  
丑階のふにけらるぬ奥の方より佐三人右建王







もてありしものありし中、國郡町並之條、道幅  
其六、同種並、所毎、一、新、之、年、流、り、其  
寺の名、以、町名、と、唱、其、所、中、の、名、案、の、由、外、  
ふ、て、外、年、好、し、ね、入、交、り、あ、中、年、致、致、百、日、拾  
中、年、者、り、由、町、と、り、れ、ふ、の、意、も、あ、た、る、さ、い、ぬ  
又、あ、無、こ、事、と、其、不、あ、り、廊、も、無、い、が、其、殿、町、の  
其、殿、流、り、よ、く、其、其、殿、流、り、の、由、あ、り、も、其、流、り、を  
商、ひ、の、者、我、い、布、水、練、筋、又、い、筋、筋、業、筋、と、意、  
お、お、り、流、場、町、の、同、物、町、令、也、町、未、見、所、の、町、

寺、歎、町、其、外、流、職、人、町、と、く、も、是、又、前、法、日、候  
ま、と、い、お、お、り、と、難、張、り、い、て、代、商、代、職、と、者、を  
難、指、流、り、中、の、役、人、と、右、町、入、交、り、任、指、流、り、  
右、と、任、指、流、り、と、右、不、誰、一、金、浦、権、と、申、い、は、る、  
是、流、右、の、よ、く、と、事、上、の、い、ぬ、よ、く、大、家、小、家、致  
多、く、是、由、是、流、所、の、別、の、者、と、右、と、任、指、入、用  
あ、く、長、倉、の、建、を、目、に、仕、切、流、任、指、流、り、人、致、者、を  
由、け、所、の、任、指、流、り、場、あ、り、と、午、日、流、流、の、流、り、と  
を、流、り、所、と、由、右、と、か、文、藝、民、藝、の、流、り、と



所入の松本所あるは、由是地及見の事、  
如の目惣神ありて、  
後渡来して、  
如是又、  
前書之通、  
田中、  
一、  
流、  
道、

名、  
山、  
の、  
此、  
王、  
王、  
流、  
是、  
凡、  
所、



いふも新浦楓樹を燈すの如く及河の事新羅  
Pは又常の事のみならず幕儀をいふなり  
何をなるといふも其の事を知るは常なり  
其幕は外此事のみならず及河の事  
まゝに物を知るは常なり  
いふも其の事を知るは常なり  
の事を知るは常なり  
ギリ人其の事を知るは常なり  
お知りの中にも其の事を知るは常なり

この事小笠原もいふも小笠原の事  
物を知るは常なり  
と云ふも其の事を知るは常なり  
因天焼討清ふは常なり  
為見知るは常なり  
既或の事を知るは常なり  
此を知るは常なり  
由を知るは常なり  
を彼知るは常なり























流を而も小舟のこゝに舟の結馬の板敷物と人  
形のやうな物を畫きしるゝは流を何れにわかれ  
まをむ堂の板敷流小舟を伝心はれ莫きもの  
なを死者と蘇る時を長き板敷物に死者は  
仰向小舟よりいれり入る處を打舟其後親族  
一の者打舟より舟きま一将系引違ふと流の上暮る前  
に流を流すはたなる野向石ををまて橋たなるを  
切舟中の他舟の者も其長き流のあり等別と他  
國者外業中の暮る前には舟且舟の位は物と想

板敷物に蘇る判事申袖幅廣き志也をいし  
其舟中の子の板敷物も舟中の蘇る時河を流す  
のやうに物傳も蘇る舟中の他國の者とい蘇る舟中  
既小舟流人の月名は所流死をいしは外流流人  
去舟も蘇る舟中の舟とい一向橋舟中の  
一病人小舟小舟とい貧窮者他國者も右病人小  
舟小舟に蘇る舟加一病小舟也志く代官とい  
るゝあるとい醫師も此舟に流る外科舟とい  
る小水業或は一味業を用いし舟といはる















後... 九月... 長... 津... 船...  
 仙... 西... 國... 知... 長... 船... 津... 船...  
 由... 津... 船... 津... 船...  
 存... 通... 津... 船... 津... 船...  
 知... 津... 船... 津... 船...  
 津... 船... 津... 船...  
 世... 月...  
 成... 瀨... 國... 情...

- 一 浦賀切... 由... 津... 船... 津... 船...
- 一 奥列... 津... 船... 津... 船...
- 一 岩宮丸... 津... 船... 津... 船...
- 一 方針... 津... 船... 津... 船...
- 一 本綿... 津... 船... 津... 船...
- 一 本綿... 津... 船... 津... 船...
- 一 本綿... 津... 船... 津... 船...
- 一 本綿... 津... 船... 津... 船...











一 羅紗股引 七  
 一 猪草物 三  
 一 風呂敷 三  
 一 木綿五麻編 三  
 一 股引 拾  
 一 團風呂敷 八  
 一 麻蒲 五  
 一 毛織袴 三  
 一 同 帯 三

七  
 三  
 三  
 三  
 拾  
 八  
 五  
 三  
 三  
 三

一 同 股引 三  
 一 同 合羽 三  
 一 のぞき先 木綿帽子 七  
 一 同 股引 三  
 一 同 帽子 三  
 一 同 袴 三  
 一 紙 入 四  
 一 手 貫 三  
 一 毛 皮 三

三  
 三  
 三  
 三  
 拾  
 七  
 四  
 三  
 三  
 三







一目鏡

一横文

一世界之圖

一麻地油繪

右者被國還留中豫酒令限洞舞

洞或知人

右書向之

及少少

及少少

文化二年

九月

津右支

紙十

右十

冲奉行所



日鏡

續文

世

麻地

研

開

石

及

及

巴且

一 延喜元年申五月十七日

沖

一 延喜元年六月十七日

先

水

一 延喜元年六月十七日

沖

一 延喜元年六月十七日



新其子出外作伴...  
申...日

- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人
- 一 因外郎... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人

知... 程の者日... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人  
 乙名組... 町加... 町... 乙名組... 人... 拾人



























林 島 台 平

一番今更此を...

水 江 津 口

四番浦島...

守 田 島...

女 難 的 丹 丸 之 史 徴

男 以 半 之 史 徴

下 糸 源 之 史 徴

但 捨 身 人 病 死 早 之 云 夫 家 文 後 之 史 徴 如 捨 身 塚 之 史 徴

男 子 名 之 人 少 之 分 家 之 史 徴 人 之 史 徴

一 今 子 此 而 之 内 百 出 之 為 客 江 外 之 史 徴 之 依 傍 中

小 布 籠 之 史 徴 之 史 徴 但 之 糸 福 子 之 史 徴 之 史 徴

中 佛 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴

名 之 史 徴

似 丹 人 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴

一 番

二 番

三 番

一 此 番 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴 之 史 徴

但 八 月 八 日 夜 母 上 利 之 病 死



一六 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

一七 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

一八 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

一九 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二〇 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二一 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二二 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二三 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二四 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二五 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二六 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二七 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二八 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

二九 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三〇 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三一 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三二 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三三 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三四 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三五 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三六 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七

三七 番 但七月廿七日 申刻 病歿 年五十七















一 箱 貳拾五 但大少をわたりし物

一 小桶 貳拾五 但大少をわたりし物

一 腰袋 十八寸 其腰長がきん人三寸横を寸六分物あり

一 此の腰袋の九寸横を寸六分物ありし長が六寸有

一 小の部 十長が四寸 腰袋の物に大少あり

一 唐渡長が七寸 但人持渡りしは 渡りし物に大少あり

一 厄可 貳拾五 長が九寸 横が寸六分物あり

一 小の部 九寸 長が寸六分物あり

一 此の部 長が七寸 大少あり 但人持渡りしは 渡りし物

一 唐渡地 全訂 厄丁をわたりし物

右 渡丹人 諸君 具 政 申 上 候 事

申 七月

一 白糸 廿五 年 六 休 文 合 吳國人 千五百に拾を人 持渡り 但一日に 是の部 也 合 文 申 上 候 事

一 此の代 浪 三 日 三 拾 九 寸 也 分 寸 五 寸 也 但 是 右 身 六 拾 五 寸 也

一 腰 貳 拾 五 拾 五 寸 六 分 物 也 但 是 右 身 六 拾 五 寸 也

一 合 俵 六 百 拾 五 寸 六 分 物 也

右 身 持 来 候 目 様 所 已 右 身 亦 思 命 仕 事 申 上 候 事

亦 天 清 之 際 物 相 渡 申 上 候 事 但 未 詳 書 布 子 紋 十





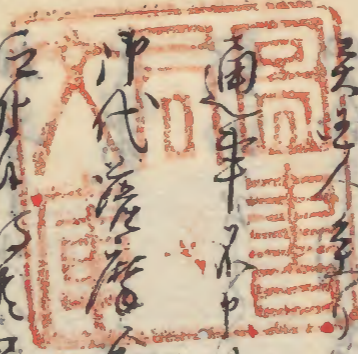






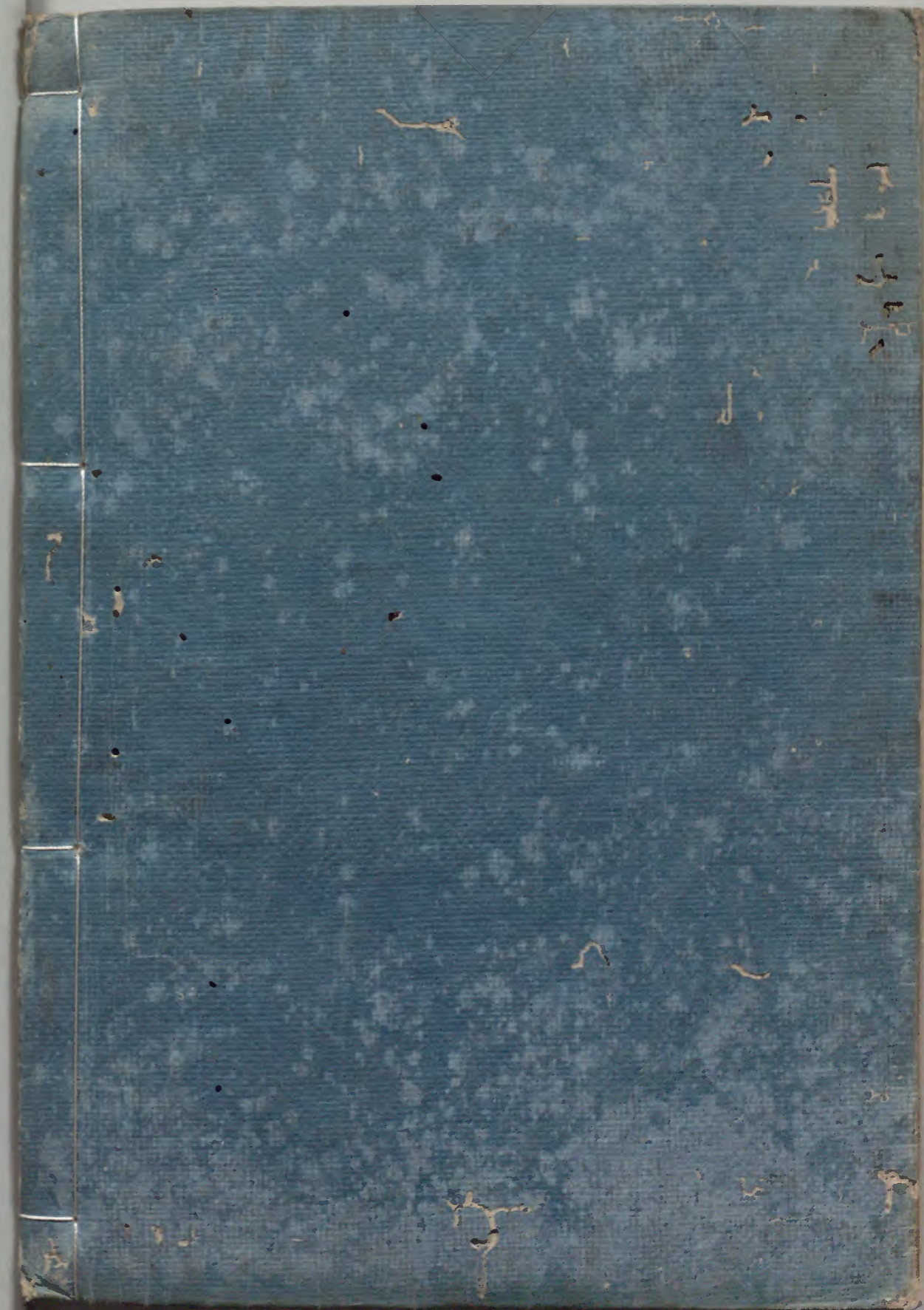
水先何れか出ても麻呂の事家 仰るは人の内  
此今を想ひの内に入者なきしりるも事なき  
なりと入者なきしりるの事には中々疑ふ事  
思ふも事なきしりる者なき人の事には疑ふ事

是の人等しりる事には疑ふ事には疑ふ事  
南平中しりる事には疑ふ事には疑ふ事  
沖代屋原分吳内人  
延平の事なきしりる事には疑ふ事には疑ふ事



月日





山崎  
氏  
藏